



# レジャー白書 2014

## 11年ぶりに余暇市場が増加

公益財団法人 日本生産性本部

公益財団法人日本生産性本部（理事長 松川昌義）余暇創研は、『レジャー白書 2014～マイ・レジャー時代の余暇満足度～』をとりまとめた。同白書は、余暇活動調査等をもとに、わが国における余暇の実態を需給双方の視点から総合的・時系列的にとりまとめている唯一のもので、1977年の創刊以来通算 38 号目になる。

### 日本人の余暇活動の現状 ～「国内観光旅行」が参加人口首位に定着～ <資料 p. 2>

「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」（5,590 万人）が、3 年連続首位となり、レジャーの代表格として定着した。続いて 2 位「ドライブ」3 位「外食（日常的なものは除く）」の順も昨年と同じだった。今回初めて調査した「読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）」の参加人口は 4,440 万人にのぼった。

### 余暇関連産業・市場の動向 ～11年ぶり余暇市場が増加、観光・行楽が好調～<⇒資料 p. 3>

2013 年の余暇市場は 65 兆 2,160 億円（前年比 0.8%、4,900 億円増）となり、僅かだが増加した。趣味・創作部門は減少したが、観光・行楽部門が前年に引き続き 4% 台の伸びとなった。

【スポーツ部門】ランニング、登山、キャンプ用品が好調を維持。ゴルフ用品も増加。

【趣味・創作部門】CD・音楽配信がマイナス。カメラ、音楽コンサートが堅調。

【娯楽部門】外食とカラオケボックスが増加。公営ギャンブルが 2 年連続増加。

【観光・行楽部門】遊園地・テーマパークが過去最高の売上。国内旅行もプラス。

### 特別レポート ～マイ・レジャー時代の余暇満足度～

1 人当たり参加種目数や希望種目数が減少し、限られた種類の余暇を過ごす時代が来るなか、余暇生活への満足度や最も重視する余暇活動（マイ・レジャー）を聞いた。

- 余暇生活の満足度は、男女とも 10 代から 40 代まで低下し、50 代で上昇に転じ、70 代が最高となった。とくに 50 代から 60 代にかけての満足度の上昇が目立つ。<⇒資料 p. 4>
- 「最も重視する余暇活動」を 1 つだけ選んでもらったところ、「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が最多。満足度が高かったのは「海外旅行」だった。<⇒資料 p. 5>

<余暇活動調査の仕様> ■調査方法 : インターネット調査 ■調査対象 : 全国 15 歳～79 歳男女  
■有効回収数 : 3,349 (人) ■調査時期 : 2014 年 1 月

【お問合せ先】 公益財団法人日本生産性本部 余暇創研 （担当）志村、高橋

Tel : 03-3409-1125 / Fax : 03-3409-1187 / Mail : yoka@jpc-net.jp

1 2013年の余暇活動

# 国内観光旅行が参加人口首位に定着

(本文第1章参照)

2013年における参加人口の上位4種目は、「国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)」「ドライブ」「外食(日常的なものは除く)」「映画(テレビは除く)」で前年と変わらなかった。「国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)」が首位となるのは3年連続。「ドライブ」「外食(日常的なものは除く)」がそれぞれ510万人、700万人減少して5,000万人を下回るなかで、「国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)」は80万人の減少にとどまり、レジャーの代表格として定着した。

「音楽鑑賞(配信、CD、レコード、テープ、FMなど)」が順位を下げた一方で、「音楽会、コンサートなど」は順位を上げ、その差が縮まっている。そのほか順位を上げたものとしては、「複合ショッピングセンター、アウトレットモール」「動物園、植物園、水族館、博物館」「宝くじ」「ビデオの鑑賞(レンタルを含む)」「ウォーキング」「帰省旅行」「遊園地」などがある。今回新たに調査した種目では、「読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての)」「ウィンドウショッピング(見て歩きなど娯楽としての)」が上位20位圏内にある。

図表1 余暇活動の参加人口上位20位(2012年～2013年)

2012年			2013年		
順位	余暇活動種目	万人	順位	余暇活動種目	万人
1	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	5,670	1	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	5,590
2	ドライブ	5,200	2	ドライブ	4,690
3	外食(日常的なものは除く)	5,170	3	外食(日常的なものは除く)	4,470
4	映画(テレビは除く)	4,090	4	映画(テレビは除く)	3,780
5	音楽鑑賞(CD、レコード、テープ、FMなど)	4,000	5	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	3,690
6	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	3,920	6	動物園、植物園、水族館、博物館	3,500
7	カラオケ	3,660	7	カラオケ	3,360
8	動物園、植物園、水族館、博物館	3,650	8	宝くじ	3,330
9	宝くじ	3,530	9	ビデオの鑑賞(レンタルを含む) ウォーキング	3,120
10	ビデオの鑑賞(レンタルを含む)	3,420	11	音楽鑑賞(配信、CD、レコード、テープ、FMなど)	3,110
11	ウォーキング	3,380	12	温浴施設(健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等)	3,060
12	温浴施設(健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等)	3,300	13	園芸、庭いじり	2,790
13	園芸、庭いじり	3,100	14	テレビゲーム(家庭での)	2,530
14	テレビゲーム(家庭での)	3,080	15	音楽会、コンサートなど	2,510
15	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	3,070	16	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	2,500
16	音楽会、コンサートなど	2,570	17	帰省旅行	2,250
17	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	2,510	18	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	2,230
18	ジョギング、マラソン	2,450	19	バーベキュー	2,110
19	バー、スナック、パブ、飲み屋	2,420	20	遊園地	2,100
20	帰省旅行 バーベキュー	2,370			

(注1) パソコン(ゲーム、趣味、通信など)の参加人口はインターネット調査であることを考慮して2012年から除外した。

(注2) 今年度新たに追加した「読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての)」「ウィンドウショッピング(見て歩きなど娯楽としての)」の参加人口は右のとおり。

新規追加種目	万人
読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての)	4,440
ウィンドウショッピング(見て歩きなど娯楽としての)	3,540

# 11年ぶり余暇市場が増加、観光・行楽が好調

(本文第2章参照)

2013年の余暇市場は65兆2,160億円となり、前年比0.8%、4,900億円増と、2002年に0.7%増加して以来11年ぶりのプラスとなった。特に観光・行楽部門が2年連続して大きく伸び、多くの分野で回復傾向がみられた。年の後半における消費増税の駆け込み需要も拡大要因となった。

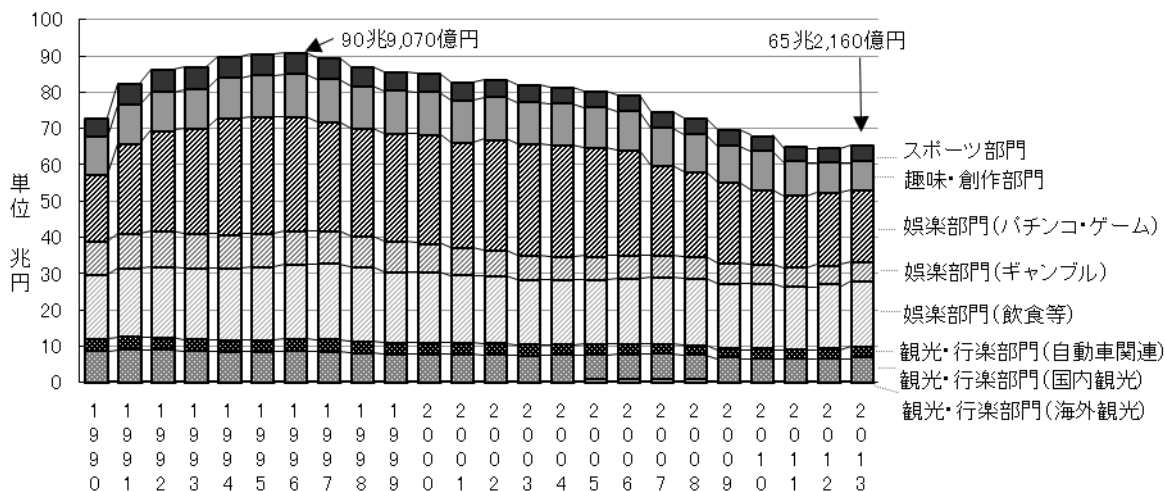
**スポーツ部門** (前年比0.1%増) は横這いを維持した。スポーツ用品はシューズ、ウェアが堅調で、ランニング用品、登山・キャンプ用品も引き続き伸びた。ゴルフ用品は2年連続で増加した。スポーツサービスで伸びたのはフィットネスクラブ、スキー場だった。

**趣味・創作部門** (前年比2.7%減) はマイナスから回復していない。テレビは、二大特需の反動減が続き、CD・音楽配信もヒット作が少なかった。映画は、邦画バブルだったが、興行収入は横這いだった。数少ない堅調な分野は、カメラと音楽コンサートだった。

**娯楽部門** (前年比0.8%増) では、外食が前年からの伸びを加速した。カラオケボックス(ルーム)も増加が続いた。宝くじは、数字選択式が2桁増となった。公営ギャンブルは、2年連続で増加した。パチンコ・パチスロは、前年の若干プラスから再びマイナスに転じた。テレビゲーム・ゲームソフトは大きく減少し、好転材料が少ない。

**観光・行楽部門** (前年比4.0%増) は前年に続き4%台の伸びとなった。遊園地・テーマパークは過去最高の売上げを更新し、旅行業は、国内旅行が大きく伸びた。海外旅行は、円安の影響もあり、出国者数の減少から取扱額は減少した。クルーズも利用者が大幅に増加した。鉄道、貸切バス、航空も利用客数を増やした。旅館は伸びなかったが、ホテルは大きく伸びた。乗用車の販売額は、ほぼ横這いに推移した。

図表2 余暇市場の推移



### 3 余暇生活の満足度・期待度・向上度

## 男性より女性、中年層より高年層で高満足

(本文第3章参照)

余暇生活についての「満足度」「5年後への期待度」「5年前からの向上度」を5段階評価で聞いた。図表3はその結果をポイント化して性・年代別の平均値をグラフ化したものである。男女を比較すると、満足度、期待度、向上度とも、男性より女性のほうが高くなっている。

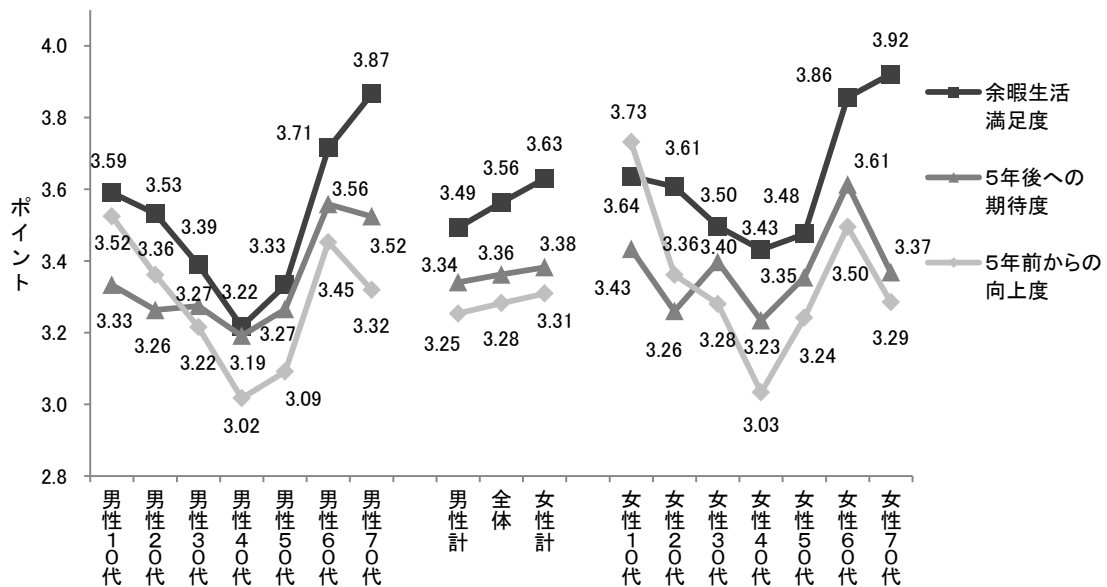
性・年代別にみると、**満足度**は男女とも10代から40代までは低下し、50代で上昇に転じ、70代が最高となっている。とくに50代から60代にかけての満足度の上昇が目立つ。

**期待度**は、10代から50代まで変動はあるものの大きな変化はなく、60代で大きく上昇するが、70代で低下する。女性は男性に比べ10代から50代までの期待度の変動幅がやや大きく、70代での期待度の低下が大きい。

**向上度**は、男女とも10代が最も高く、やはり40代で底打ちし、60代まで上昇するものの、70代は60代に比べて低下する。

職業人生の定年を迎える60代で余暇生活の満足度、期待度、向上度がいずれも高まることがわかった。

図表3 余暇生活の満足度・期待度・向上度ポイント



(注1) 次のとおりポイント化して性・年代別の平均値を示した。「余暇生活満足度」については、「満足している」=5、「やや満足している」=4、「どちらともいえない」=3、「あまり満足していない」=2、「満足していない」=1。「余暇生活の5年後の期待度」については、「期待が持てる」=5、「やや期待が持てる」=4、「どちらともいえない」=3、「あまり期待が持てない」=2、「期待が持てない」=1。「余暇生活の5年前との相対向上度」については「向上した」=5、「やや向上した」=4、「変わらない」=3、「やや低下した」=2、「低下した」=1。

#### 4 最も重視する余暇活動の満足度

### 国内旅行を最重視、海外旅行に高い満足

(本文第3章参照)

1人平均十数種目参加している活動のうち、「最も重視する余暇活動」を1つだけ選んでもらったところ、最も多かったのは、「国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)」で11.7%となった。2位は「読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての)」で4.8%、3位は「海外旅行」で4.0%、4位は「ウォーキング」で3.8%、5位「園芸、庭いじり」の3.5%だった。国内、海外の旅行がレジャーの中でもとくに重視されていることがわかった。

「最も重視する余暇活動」に対する満足度を5段階評価で聞いたところ、最も満足度ポイントが高かったのは「海外旅行」で「満足している」と「やや満足している」の合計は94.0%に達した。次いで「音楽会、コンサートなど」も「満足している」だけで5割を超えた。

図表4 最も重視する余暇活動上位5種目(2013年)

(%)

性・年代	回答数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	3,349	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など) 11.7	読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての) 4.8	海外旅行 4.0	ウォーキング 3.8	園芸、庭いじり 3.5
男性計	1,636	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など) 11.2	ウォーキング 4.2	ジョギング、マラソン 4.2	ゴルフ(コース) 4.1	読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての) 3.5
女性計	1,713	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など) 12.3	読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての) 6.1	海外旅行 5.3	音楽会、コンサートなど 4.5	園芸、庭いじり 3.9

(注1) 参加した種目のうち、最も重視する種目を1つだけ選択してもらった回答の割合順。

図表5 最も重視する余暇活動の種目に対する満足度

(%、満足度はポイント)

順位	種目	(回答数)	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	種目に対する満足度
1	海外旅行	133	50.4	43.6	3.0	2.3	0.8	4.41
2	音楽会、コンサートなど	111	52.3	34.2	8.1	3.6	1.8	4.32
3	国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	393	27.0	58.3	10.2	4.1	0.5	4.07
4	読書(仕事、勉強などを除く娯楽としての)	162	32.7	47.5	11.1	8.0	0.6	4.04
5	ウォーキング	128	28.9	50.8	13.3	6.3	0.8	4.01
6	園芸、庭いじり	116	25.9	50.9	12.1	10.3	0.9	3.91

(注1) 参加した種目のうち最も重視するものを1つを選んでもらい、回答者が100人以上いた種目(6種目)について、その種目に対する満足度の高い順に示した。

(注2) 「種目に対する満足度」は回答を次のようにポイント化して、平均値を示した。「満足している」=5、「やや満足している」=4、「どちらともいえない」=3、「あまり満足していない」=2、「満足していない」=1

(注3) 濃い網掛けは、その種目で最も多い回答、薄い網掛けはその次に多い回答を示す。例えば海外旅行は「満足している」という回答が最も多く、次に「やや満足している」の回答が多いことを示す。

# レジャー白書 2014

## ～マイ・レジャー時代の余暇満足度～

公益財団法人 日本生産性本部 編集 発行

2014年8月刊行 A4判 184ページ 本体7,000円＋税

### ■主な掲載データ

【行動面】参加人口／参加率／参加希望率／潜在需要／年間平均活動回数／年間平均費用／男女別・年代別の参加人口構成比／男女別・年代別・地域別の参加率／時系列分析

【市場面】市場規模の推移

【意識面】余暇生活への満足度、期待度／余暇種目への満足度

### ■レジャー白書 2014 の特徴

- 新規調査種目を2種目追加 「読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）」  
「ウィンドウショッピング（見て歩きなど娯楽としての）」
- 余暇参加の満足度、期待度、向上度を調査
- 種目別に1回当たりの活動時間、日数を調査
- 高年層を「60代」と「70代」に分け、シニアの動向を分析
- 参加人口の性・年代別構成比を推計

### ■目次

- 第1章 日本人の余暇の現状
- 第2章 2013年の余暇関連産業・市場の動向
- 第3章 特別レポート  
マイ・レジャー時代の余暇満足度
- 第4章 余暇関連先進事例
- 巻末資料

お求め方法：全国有名書店、ネット書店からお取り寄せのほか、日本生産性本部のホームページ (<http://www.jpc-net.jp/leisure/index.html>) からご購入いただけます。

## レジャー白書短信、データ販売のご案内

### ■レジャー白書短信 等

レジャー白書のデータをもとに、トピック別に追加分析した結果を随時発行しています。

<http://www.jpc-net.jp/leisure/index.html> でご案内しています。

- 2014年6月9日 レジャー白書短信第1号「未・既婚、子供の数で変わる参加率・潜在需要－30～40代「団塊ジュニア世代」の余暇活動はいま－」
- 2013年12月11日 レジャー白書 2013 続報「シニア層余暇参加の追加分析」

### ■データ販売

レジャー白書の本書で掲載しているデータのほか、ご要望に応じて集計表を作成し、有償でご提供いたします。市場動向分析・マーケティング戦略等に、お役立て下さい。

(例)

- ○○種目の性・年代別希望率を知りたい。
- ○○地域における参加率、希望率、年間平均活動回数、年間平均費用

お問い合わせ：公益財団法人日本生産性本部 〒150-8307 東京都渋谷区渋谷 3-1-1

レジャー白書の販売 : 生産性出版 TEL : 03-3409-1133 FAX : 03-3498-1767

白書の内容・データ販売 : 余暇創研 TEL : 03-3409-1125 FAX : 03-3409-1187

検索サイトで「レジャー白書」を検索ください。

レジャー白書

検索